

## ILO が Gallup との共同報告書

## 「Towards a better future for women and work」を公表

Research Clip  
2017年7月社会システム研究所  
研究員 川久保 皓史

リサーチ・クリップでは、最近関心の高まっている環境問題、企業の従業員・地域社会といった様々な社会との関わりなどに関する記事や、国内および海外における公募投信（以下、ファンド）の最新情報を紹介します。

■ 国連の専門機関のひとつである国際労働機関 (International Labour Organization、以下、ILO) は、女性と仕事に関する調査報告書「Towards a better future for women and work: Voices of women and men」を、調査会社の Gallup と共同で発表した。ILO は、「decent work(働きがいのある人間らしい仕事)」の実現を目指して活動しており、その課題のひとつに仕事の世界における男女平等を挙げている。また、国連の SDGs(持続可能な開発目標 : Sustainable Development Goals)の目標 8「働きがいも経済成長も<sup>1</sup>」に「decent work の実現」は採択されている。本報告書は世界中の男女を対象に、女性と仕事に関する意識調査を行い、当人らの認識や考え方をまとめたものである。

## 【報告書の概要】

調査は、2016年に世界 142カ国の 15歳以上の男女、およそ 14万 9,000人に対するインタビューにより行われた。まず、女性が有償の仕事に就くことに対する意識調査では、「有償の仕事に就く」、「家に留まる」、「仕事と家庭の両立をする」の3つの選択肢から、女性には自身がどうしたいか、男性には家庭の女性にどうしてほしいかを聞いた。その結果、世界の 70%の女性と 66%の男性は、女性が働くことに肯定的な回答（「有償の仕事に就く」または「仕事と家庭の両立をする」）であった。とりわけ「仕事と家庭の両立」が、全体の回答の約 4割と高かった。また、男女の各回答は世界全体でみるとほぼ同率であり、女性労働に関する意識において男女間のギャップは小さいことが分かった。

だが地域別にみると、アフリカの女性は女性労働に対し 8割以上が肯定的であるのに対し、男性は過半数が女性には家に留まってほしいと回答しており、男女間の意識の差が大きい。他にもアラブ、東南アジア、中央アジア・西アジアの地域でも男女間の差が大きい。

日本では、男性は 79%、女性は 76%が働くことに肯定的で、北欧・南欧・西欧より低くなったが、北米より高い水準となり、男女間の差は小さい。仕事と家庭の両立を望む男女の割合も 5~6割となっており、世界全体で見ても高い水準であった。

<sup>1</sup> <http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home/sdg/post-2015-development-agenda/goal-8.html>

図表1 女性が有償の仕事に就くことに対する意識調査

地域	性別	有償の仕事に就く (A)	仕事と家庭の両立 (B)	働くことを望む (A+B)	家庭に留まる
世界	男	28%	38%	66%	29%
	女	29%	41%	70%	27%
日本	男	18%	61%	79%	14%
	女	20%	56%	76%	22%
アフリカ	男	24%	23%	47%	51%
	女	36%	31%	82%	16%
ラテンアメリカ	男	32%	47%	71%	27%
	女	34%	48%	72%	26%
北米	男	25%	46%	71%	21%
	女	18%	59%	77%	23%
アラブ	男	17%	35%	52%	45%
	女	17%	45%	62%	36%
東アジア	男	23%	44%	67%	28%
	女	30%	43%	73%	25%
東南アジア	男	14%	48%	62%	36%
	女	21%	55%	76%	23%
南アジア	男	33%	26%	59%	37%
	女	26%	26%	52%	42%
北欧・南欧・西欧	男	35%	51%	86%	12%
	女	25%	60%	85%	13%
東欧	男	36%	26%	62%	31%
	女	46%	24%	70%	26%
中央アジア・西アジア	男	33%	29%	62%	33%
	女	39%	40%	79%	19%

※「不明/無回答」は表から除外

(出所) 「Towards a better future for women and work: Voices of women and men」をもとに当社作成

仕事と家庭の両立を望む声は日本をはじめ、北欧・南欧・西欧や北米など、主に先進国地域で高い。一方、低い地域はアフリカや南アジア、中央アジア・西アジア、東欧など、発展途上の地域が多い。このような傾向が見られる要因のひとつとして、教育水準が関係している可能性がある。一般的に、発展途上国より先進国諸国の方が、高い教育を受けている割合が高い。また、回答者の教育水準が高くなるにつれ、男女とも仕事と家庭の両立を望む傾向がある。

図表2 女性が有償の仕事に就くことに対する意識調査(世界全体・教育水準別)

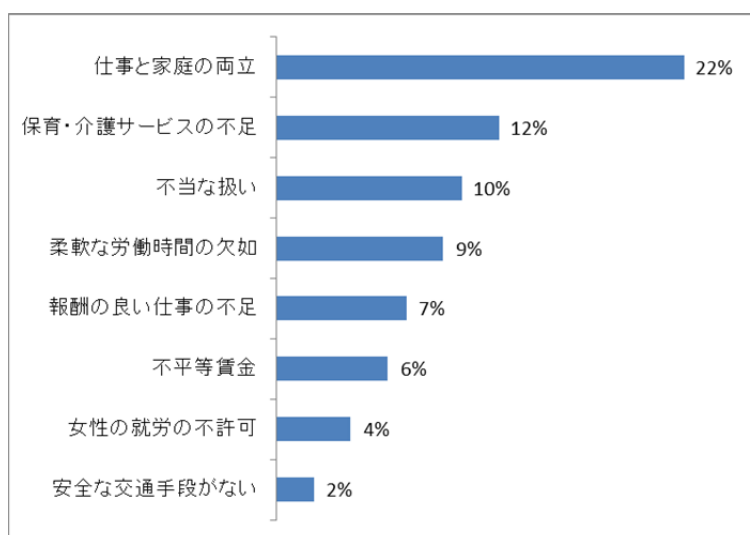
教育水準	性別	有償の仕事に就く (A)	仕事と家庭の両立 (B)	働くことを望む (A+B)	家庭に留まる
Primary (小学校)	男	26%	33%	59%	36%
	女	26%	34%	60%	36%
Secondary (中学・高校)	男	30%	41%	71%	26%
	女	30%	47%	77%	21%
University (大学)	男	29%	47%	76%	19%
	女	32%	51%	83%	15%

※「不明/無回答」は表から除外

(出所) 「Towards a better future for women and work: Voices of women and men」をもとに当社作成

地域や属性による差はあれ、女性が有償の仕事に就くことは、世界の大半で受け入れられることが分かる。一方で、女性の仕事に関する課題が数多く存在している。女性の労働にどのような障壁があるのか。この点についても、働く女性が抱える課題についての意識調査を行った。

図表 3 世界の働く女性が抱える課題



(出所)「Towards a better future for women and work:Voices of women and men」  
をもとに当社作成

世界全体で認識されている最大の課題は、「仕事と家庭の両立」という結果となった。世界の男女が理想とする女性の働き方である、「仕事と家庭の両立」のどこが課題となっているのか。ILOによれば、働く女性は家族の介護・病気の介助や育児の為に休暇を取る傾向があり、仕事に費やす時間が短くなりがちである。それが彼女たちの所得、キャリア形成、最終職位に影響を及ぼす可能性が高いという。これは同調査で「保育・介護サービスの不足」、「柔軟な労働時間の欠如」が、「仕事と家庭の両立」と同じく上位に挙がっていることから頷ける。世界の女性は、家庭と仕事の両立を望み望まれている一方、現状においてそれは女性にとって大きなチャレンジだということがわかる。

次に、雇用機会に関する問題意識を見てみよう。同等の教育、経験をした者であれば、男女問わず雇用機会は等しく与えられるべきである。だが実際のデータによれば、そこにはまだ格差があることがわかっている。世界の男女は雇用機会の問題について、どう認識しているかを調査してみた。

図表 4 男女別 世界の雇用機会における意識調査

	女性の方が有利	同じ	男性の方が有利
男性	29%	41%	25%
女性	25%	39%	28%

※「不明/無回答」は表から除外

(出所)「Towards a better future for women and work:Voices of women and men」をもとに当社作成

結果は、雇用機会において男女の格差を感じている人は少なく、男性だけでなく女性もほぼ同じである。実際には雇用機会の男女格差が存在するが、当の本人達、女性までもあまり認識していない。これはどういうことなのか。さらに調べてみると、教育水準の高い層で、強く男女格差を認識していることがわかる。

図表 5 教育水準別 世界の雇用機会における意識調査(男女合計)

教育水準	女性の方が有利	同じ	男性の方が有利
Primary (小学校)	29%	36%	25%
Secondary (中学・高校)	24%	42%	30%
University (大学)	14%	44%	39%

※「不明/無回答」は表から除外

(出所) 「Towards a better future for women and work:Voices of women and men」をもとに当社作成

これは、教育水準の高い男女の間では、高賃金の職場の競争が激化していることが関連している可能性がある。ILO のデータでも、高所得層の女性ほど賃金格差の影響を受けることが示されている。世界全体の男女の賃金格差は 23%と推測されているが、CEO の職位でその差は 50%を超える。直近のウェルズ・ファーゴの報告書<sup>2</sup>でも、職位が上がるにつれ、男性に有利な格差が表れるという傾向を確認している。

客観的なデータを見ると、仕事の世界で男女平等は未だ達成されていない。しかし本報告書からは、世界の大半の男女は女性が働くことに對し肯定的であり、女性労働に対する意識や課題の認識を同じくしていることがわかる。

このレポートは以下の URL より取得できる。

([http://www.ilo.org/wcmsp5/groups/public/---dgreports/---dcomm/---publ/documents/publication/wcms\\_546256.pdf](http://www.ilo.org/wcmsp5/groups/public/---dgreports/---dcomm/---publ/documents/publication/wcms_546256.pdf))

(END)

<sup>2</sup> Ferro, S. (2015). There's a gender pay gap at every age, and it only gets worse as workers get older. *Business Insider UK*.